

中期計画（2018-2022年度）		2022年度：5年目	
最 重 点 項 目		「Stand in the Gap 破れ口にキリストの平和を」（コンセプト）の結実と振り返り	
		総合神学科の教育の充実と定員を充足するための募集活動の新たな展開	
		「グローバル神学」推進のための体制を整えてスタートさせる	
		資金の収支の改善に向けた施策の立案と実行⑤ 開学以来の収支構造の抜本的改革を進める	
1 ・ 教 育 ・ 学 生 支 援	1 部署横断的な組織新設	EM（エンrollmentマネジメント）体制を構築する（A）	
	2 包括的な学生生活のバランスの実現	1	学務会議で学生支援について中心的に対応する
	3 有機的な学生ポートフォリオ構築	2	教授会における学生支援に関する意見交換を充実する
	4 寮教育の本質検討と実践	3	初年次・二年次、各専攻グループの教職協働体制を整備する
	5 通学生への学生支援	4	教務部と学生部の協働体制を整備する
	6 多様な学生ニーズに応える学修支援	ポストコロナを意識した全学生に対する統合的學生支援を実施する（A）	
	7 学生生活（経済・精神的）支援体制充実	5	コイノニアによる共同体形成を推進する
	8 学部の学科再編（カリキュラム全体スリム化）	6	オンラインによる入学前教育を充実する
	9 修士課程のコース見直し（カリキュラム全体スリム化）	7	総合神学科の初年次及び二年次教育を充実する
	10 日英提供プログラムの連動性強化	8	総合神学科の学生像に相応しい行事のあり方を検討する
	11 学部初年次教育の充実	9	総合神学科の学生像に相応しい教会実習のあり方を検討する
	12 教会教職者カリキュラムの柔軟化検討	10	TCUポートフォリオの有効な活用を推進する
	13 福祉専攻における全世代対応ケアワーカー・リーダー養成	11	担任制を軸とした教職協働の学習支援体制を推進する
	14 国キ専攻生進路の多様化に対応したカリキュラム検討	12	教会教職課程4年間の女子学生を支援する
	15 スタディーツアー充実	13	学科再編後の学生像に相応しい通学生支援体制を検討する
	16 ダブルディグリー・短期留学制度充実	14	学科再編・ウィズコロナを踏まえた寮教育のあり方を検討する
	17 ACTS-ESカリキュラムの日本語教育充実	15	発達障がい学生の学修支援を充実する
	18 教会音楽専攻科のカリキュラム見直し	16	サードカルチャーの背景をもつ学生の学修支援を充実する
	19 学修成果測定・評価の検討と見直し	17	The Writing Centerの活動を推進する
	20 教会教職養成課程3年制設置の検討	18	国籍を超えてお互いのニーズを理解し共同体形成を促進する
	21 学部の学科再編の検討	19	学科再編・ウィズコロナを踏まえた教育のためのFD・SDを実施する
	22 教員免許課程設置の検討	全学生に対する統合的學生支援を実施する（A）	
	23 研究科の通信教育課程の継続調査	20	総合神学科の各専攻の履修モデルを整備する

中期計画（2018-2022年度）		2022年度：5年目	
1 教育・ 学生支援	24 保育士資格取得特別応援コース開始	21	ウィズコロナを踏まえた大学院のカリキュラムを充実する
	25 福祉専攻科の設置検討	22	ウィズコロナを踏まえた音楽専攻科のカリキュラムを充実する
		23	英語トラックの学生の日本語教育を充実する
		学修成果測定・評価方法を検討・実施する（B）	
		24	全学的に学生情報システムを活用する体制を整備する
		25	ハイブリッド授業のための体制・環境を整備する
		26	授業改善に資する授業評価アンケートを実施する
		定員増加のための施策を検討・実施する（C）	
		27	教員免許課程・資格取得コースの実施方法・時期を検討する
		28	どこでもTCUにおける履修証明プログラムを準備する
	29	オンラインで学位取得できる大学院の準備をする	
2 学生募集	1 訪問目的の明確化	1	オンラインと対面の両面で教会訪問を行う
	2 国外：教会・宣教団体等とのネットワーク拡大	2	海外の宣教団体、教会、在外卒業生との関係を深化、拡大させる
	3 国内：ネットワーク拡大	3	支援団体、協力団体、卒業生との関係を深化、拡大させる
	4 中高生・青年宣教団体との包括協定先増加	4	新規包括協定締結先をリストし関係性を構築する
	5 オープンキャンパス参加者数増加	5	キャンパスとオンライン両方のオープンキャンパスを実施する
	6 資料請求者数増加	6	ウェブサイトでの広報活動を継続的に改善強化する
	7 入学・収容定員充足	7	入学者定員を充たし、収容定員充足を目指す
	8 アドミッションポリシーに基づく入試改革	8	入試制度の適切性を検証し必要に応じて改善する。入試体制の見直しを検討する
	9 全教職員による教会訪問	9	オンラインと対面の両面での訪問に取り組む
	10 キリスト教学校との共同取り組み推進	10	キリスト教学校との共同取り組みを推進強化する
	11 受験生目線のコミュニケーション	11	SNS等を通じて受験生の益となるコミュニケーションを行う
	12 多様（留学生・社会人等）な志願者を想定した募集活動	12	ウェブサイトでの広報活動を継続的に改善強化する
	13 人の成長に焦点を当てた広報活動	13	動画・紙媒体で学生の成長する姿を訴求する
	14 保護者の説得、阻害要因（進路・経済）を解決する広報活動	14	各調査結果を基に広報活動を行う

中期計画（2018-2022年度）		2022年度：5年目
3 ・財務 ・キャンパス整備	1 教育・学生支援充実のための改革実施	資金の収支の改善に向けた施策の立案と実行⑤ 1 収支均衡到達年度2027年度に向けて、資金流出を抑制し、経営指標に基づく財務管理に努め、財務改善実行を進める
	2 学納金収入増加	2 学納金収入現員180名分を目指す。「どこでもTCU」などのオンライン教育を推進し、学納金収入増加につなげる
	3 定員増の認可申請	3 学生定員充足と増加を最優先する
	4 寄付金収入増	4 寄付金収入9,000万円を目標とする。支援会活動の充実とともに教会・企業などへのきめ細やかなアプローチを続ける。冠奨学金・遺贈の増加を目指す
	5 適切な人件費・人件費依存率維持	5 次期人事計画を早急に立案し、それに基づく適切な人件費の割合を設定する。今年度は人件費依存率180%を目安とする
	6 人件費の見直し検討	6 次期人事計画を早急に立案し、年次毎の人件費支出の試算を行う
	7 奨学費支出の再検討	7 学生支援に支障のないように留意しつつ、冠奨学金等の活用により奨学金支出のうち、3,000万円以下の持出しを実行する
	8 資金の収支均衡実現	
	9 付随事業・収益事業の検討	8 既存の事業収入増加を図るとともに、新規収益事業の立ち上げを実施する
	10 施設・設備の計画的な補修	9 修繕計画を精査し、必要な予算措置を行う
	11 学修のためのウェブ・システム拡充	
4 ・ガバナンスとマネジメント	1 あるべき教員・職員・理事像検討し明文化	1 早急に検討を開始し、明文化を進める
	2 教職協働による学生支援体制構築	2 コイノニアと学生情報システムを連携させトータルな学生支援を教職協働で行う
	3 PDCAサイクルの有効化	3 通常の月次事業報告をPDCAサイクルを意識して行う
	4 内部質保証システム確立	4 内部質保証推進委員会(大学運営会議)が統括して内部質保証に取り組む
	5 意思決定機関のシンプル・迅速化	5 事前準備と時後のフォローを適切に行うことにより、大学運営会議、常任理事会の双方で迅速かつ適切な判断ができる体制を整える
	6 情報共有体制整備	6 迅速で確実な情報共有のためサイボウズ等の有効利用をさらに進める
	7 「コンセプト」実質化	7 大学改革コンセプトの実質化として「グローバル神学推進タスクフォース」を設置する
	8 中期計画、神の国に仕えるプロジェクト、30周年行事推進体制整備	8 大学運営会議によって第三期中期計画を評価し、第四期中期計画策定を進める。第二次神の国に仕えるプロジェクトを常任理事会・大学運営会議のもとで継続する
	9 理事長・学長・学部長等役職者の職務権限明確化	9 各役職者の職務権限に関わる規程の改正、必要に応じて新設を行う
	10 キリスト教全人格教育に全学を挙げて関わるプログラム実施	10 コイノニアとクリスチャンライフ・フォーメーションの連携を安定化させる
	11 会議の見直し	11 各会議体の目的、権限、構成に即した会議の効率化・活性化のための研修を実施する

中期計画（2018-2022年度）		2022年度：5年目		
4 ガバナンスとマネジメント	12	教授会の役割の見直し	12	教授会での教員同士の意見交換の機会をより充実させる
	13	FD・SDの充実	13	オンライン教育等喫緊の課題に対応するFD・SDを実施する
	14	理事会機能向上	14	経営責任を担う理事会と、経営の主体となる常任理事会の責任を明確化し、迅速な経営判断ができる体制を整える
	15	監査制度の充実	15	監事の役割の重要性に鑑み、財務監査、業務監査、研究関係の監査を補佐する体制を検討する
			16	顧問の任期、人選など相応しいあり方を採用する
	16	有効な情報共有		(6参照)
	17	大学認証評価準備	17	実施した自己点検・自己評価に基づき大学基準協会による認証評価を受ける
5 研究	1	外部資金の継続的な導入	1	①年間5件以上の外部研究費への申請を行う ②研究支援センターによる外部研究費関連の情報共有、申請の促進を行う
	2	学内研究体制強化	2	①研究支援センターを中心とした研究支援体制の充実を図る ②研究支援センター専用ウェブサイトの開設と情報共有を促進する
	3	教会に寄与する研究推進と成果の公開	3	①キリスト教葬制文化研究会を継続し、キリスト教葬儀に関わる人材育成プログラムを継続し検証する（国際宣教センター） ②神の国研究プロジェクトを継続する 信徒の神学研究会、キリスト教と福祉研究会（共立基督教研究所・国際宣教センター）、賀川豊彦シンポジウム（公共福祉研究センター）を通して議論を深める
	4	国内外の神学教育・宣教教育機関との連携と研究交流促進	4	日本宣教会、アジア宣教会、ATA加盟校の宣教研究所、その他との情報交換・交流を促進する
	5	協同研究、シンポジウム・学会の実施・受入れ	5	研究支援センターを中心に共同研究等の促進を図る
	6	建学の精神に関わる出版検討		
	7	信徒神学の研究	6	国際宣教センター・共立基督教研究所の合同により研究会を行う
6 教会と地域と共に	1	「教会や地域との関わりシステム」構築	1	新たな学内推進組織とその活動を軌道に乗せる
	2-1	研究成果の共有・還元		(5. 研究参照)
	2-2	様々な教育機関と交流・連携		(5. 研究参照)
	3-1	地域社会の福祉活動向上	2	介護福祉士実務者研修を実施する
	3-2	文化芸術振興	3	コロナウイルスの感染状況を踏まえ、対策本部との連携を図りながら、地域社会に開かれたコンサートや幅広い世代に向けた公開講座を提供できるよう準備する
	3-3	国際交流寄与	4	市民団体等と協力し地域の国際交流を推進する

中期計画（2018-2022年度）		2022年度：5年目	
6 教会と 地域と 共に	4-1 TCU支援会活動充実	5	支援センターが核となり、各地区のTCU支援会との相互支援活動を踏まえ、支援会活動を充実する
	4-2 支援教会・支援団体拡大	6	支援教会・支援団体との連携強化を図る。また拡大を進める
	5 教会との連携	7	教会との連携について、同窓会・支援団体と協力して教会へ働きかける
	6 ケアチャーチ関東圏外へ拡大、教会の福祉への取組支援		
	7 各分野での継続教育提供	8	各分野における継続教育提供を支援する
	8 クロスメディアによる継続教育提供		(1. 教育・学生支援参照)
	9 履修証明プログラムの充実・発展	9	2021年度から始まったオンライン・ラーニング・プログラム「どこでもTCU」の提供内容やオンライン受講方法を改善する
	10 施設の有効利用、関係団体等への貸し出し	10	貸出について、コロナウイルス感染状況を鑑み、大学の方針に沿って対応する
	11 他のキリスト教教育機関との連携し、キリスト教教育の進展に協力		(2. 学生募集参照)
	12 学生・教職員：地域社会との積極的な交流・協力・取り組み評価		
	13 学生・教職員：学外ボランティア活動推進	11	学内ボランティア推進を継続する
		12	SDG s の取り組み検討を継続する